

2024年4月30日

環境省「令和6年度令和の里海づくりモデル事業」の採択について

当行および公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金は、環境省「令和6年度令和の里海づくりモデル」事業の実施団体として採択されましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 「令和6年度令和の里海づくりモデル事業」の概要

本事業は、藻場・干潟等の保全・再生と地域資源の利活用による好循環形成や連携体制づくりを行う取り組みについて支援するものです。

2. 取組内容

天草・芦北地域において、地方公共団体（芦北町、天草市、上天草市※五十音順）、漁業協同組合および教育機関と一体となり、アマモ場の再生、ブルーカーボンクレジットの創出および環境教育等に取り組めます。当行と公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金は、各地域で行われているアマモ場再生の現場においてこれらの取り組みを支援していきます。なお、技術的な支援については鹿島建設株式会社の協力を得て実施するとともに、大学等の研究機関とも連携していきます。

【具体的な取組内容】

- ・アマモ場の再生に取り組む団体主導でのブルーカーボンクレジット申請手法の確立
- ・地域教育機関におけるアマモ場を活用した環境学習の実施
- ・地方公共団体を中心としたアマモ場の再生に係る広域連携体制の構築
- ・普及啓発を目的としたパンフレットの作成

以上




アマモ場再生作業の様子



アマモ

《本件に関するお問い合わせ》
肥後銀行 地域振興部
担当：岡本・中原
電話：096-326-8609

【該当する SDGs】

	<p>産学官連携でのアマモ場の再生や普及啓発活動などを通じて、失われつつある海洋や沿岸の生態系の回復へつなげる枠組みを構築する。</p>
---	--

※アマモとは

「海草」の一種。コンブ、ワカメなどの「海藻」とともに海岸から沿岸に「藻場」を形成する。藻場は魚類や甲殻類など様々な生物の産卵や生育の場となっており、「海のゆりかご」とも呼ばれている。海水の浄化や酸素供給機能もあり、海の生態系において重要。

このため、各地で漁協や自治体、学校などによる藻場再生の取り組みが行われている。

※ブルーカーボンとは

アマモなどの海草や海藻が光合成でCO₂を吸収して成長し、枯死後の海底への堆積などで炭素を貯留すること。近年その効果が国際的に注目されている。

昨年度より我が国において「ブルーカーボンクレジット」の取引が開始されている。

※アマモ場・藻場再生の意義

生物多様性保全（海の生態系の回復）、気候変動対策（CO₂吸収）という地球規模の環境問題解決の相乗効果があり、魚やエビなどの水産資源の回復につながると考えられている。